



対面式の学術講演会が 盛会に行われました

松永興昌(16期生)

2月25日に第36回福岡歯科大学同窓会主催学術講演会が開催されました。新型コロナウイルス感染症による自粛から解放されて、本格的な対面式の講演会として行われました。メインテーマは「歯科医療の今とこれから」で、守らないといけない歯科医療の基本と求められる修復治療の実践という内容で、3人の演者から講演をいただきました。

歯科治療の基本となる歯内療法、歯槽膿腫の現状と歯槽再生といった最先端治療まで松木良介先生にご教授いただきました。もう一つの基本となる歯周治療では、溝上宗久先生から歯周外科治療における低侵襲手術の詳細を解説していただきました。午後のメイン公演では、土屋賢司先生から補綴治療における可視化できるものとできないものという視点から、現在の補綴治療の到達点とこれから考えなければならぬ項目を教授していただきました。

200人近い申し込みをいただき、活発な質疑応答がなされ、講演会を盛況のうちに終えることができました。今後も多くの先生方に満足していただける学術事業を展開していきたいと思っています。



寺尾隆治先生 旭日小綬章受章記念祝賀会

泉福浩志(22期生)

令和6年2月3日、佐賀市内のホテルニューオータニ佐賀にて、令和5年11月の叙勲において福岡歯科大学1期生で前佐賀県歯科医師会会長の寺尾隆治先生が旭日小綬章を受章されたことを記念して受章祝賀会が執り行われ、190名の方が出席されました。

祝賀会は12期生の浦嘉訓先生が司会を務められ、来賓の祝辞を学校法人福岡学園水田祥代理理事長はじめ4名の方からいただきました。寺尾先生からの謝辞では、「この叙勲は私個人が頂いたのではなく佐賀県歯科医師会の業績に対して送られたものだ」と理解しております。と述べられ、常に傍らにいて何があっても嫌な顔一つせずに支え続けてくれる最愛の奥様へ感謝のお言葉を述べられました。

祝宴の最後は、福岡歯科大学同窓会会長吉永修先生が「春には同窓会で寺尾先生のお祝いをさせていただきたいと思っております。」との挨拶と共に行われた万歳三唱で締められました。今後も寺尾先生のご活躍とご発展を祈念させていただきます。



クリニックからこんにちは!

Hi! From Clinic

夫婦二人三脚

福岡 宏士(28期生)

28期の福岡です。妻の修子(同窓31期 旧姓:青木)と鹿児島県のさつま町で開業しています。私は補綴を中心とした一般歯科診療、妻は口腔外科や矯正治療を主にを行い、役割分担しながら、少しでも地域のニーズに応えることができるように日々、努力しております。

所属している薩摩郡歯科医師会では、予防歯科を中心とした啓発活動が活発で、フッ化物洗口を幼稚園・保育園、小学校で実施し、近年では、さつま町の12歳児のDMFT指数は全国一位の新潟県を追い越しています。さらに、現在は中学校でもフッ化物洗口を実施しています。

また、高齢者が多い地域ですので、多職種連携し、訪問歯科診療やオーラルフレイル・口腔機能低下症にも対応しなければならず、歯科医師としての社会的立場の重要性を実感しています。

これからも、同窓かつ夫婦で同じ問題を共有し、時には壁を乗り越えながら、各々の専門性を活かして夫婦二人三脚で切磋琢磨していきたいです。



卒業生
NOW

福岡歯科大学で紡ぐ夢… 次世代を導く

川口 智弘(29期生)

2007年に卒業してから早16年が経ちました。その後、有床義歯学を専攻し、今でも福岡歯科大学の一員として教職員の道を歩んでいます。教壇に立つようになって今年で10年目になりました。最初は1スライド作成するのに1週間以上費やし、講義は毎回学会発表のような緊張した気持ちで挑んでいました。何度も試行錯誤を経て、徐々に学生からの質問も増えるようになり、手応えを感じるようになりました。

学会や講演会等で、指導していた学生たちが歯科医師となり、それぞれの分野で成功している姿を拝見すると、大変嬉しいです。卒業後にも、私の授業で使用していたスライド集を参考にしていてと聞くと、教員としてのやりがいを感じます。また、次世代の歯科医師をどのように育成していくか、その責任と使命に改めて気づかされます。もし私の姿を見かけたら、遠慮なく声をかけてください。

歯科医師国家試験の難化に悪戦苦闘していますが、大学に貢献できるような今後も努めていきたいと思っています。

